

課題の着手時期や優先度の評価軸の考え方(学会案)

- ・立場や専門性の異なるメンバーによる多様な視点からの議論を通じて、検討範囲の境界における抜け落ちのない技術課題
- ・領域間の専門家連携や異なる立場からの参画等で効果的に解決が可能となる新たな課題の確認

解決すべき課題の抽出・整理と技術マップの策定

様々な状態を仮定した軽水炉に対して
(深層防護に基づいた)安全性向上の実効性が高い

- ① 安全性検証や安全性向上への寄与が高いか(課題を解決した場合にリスク低減効果が相対的に大きい)
- ② リスク評価の信頼性向上への寄与が高いか(未説明・未認識の現象の解明や予測・評価レベルの向上が大きい)
- ③ 効果的な代替策の選択肢が少ない解決策に関する課題か(当該成果によって、安全対策や評価の選択肢が拡大する課題か)
- ④ 早期に適用が可能か(高い技術成熟度に立脚した解決策か、既設プラントに改造を要せずに導入可能か、等)

実効性のある成果が見通せる課題への
優先的着手の評価

軽水炉の安全性向上に寄与する技術や人材(情報、
制度等も含む)の維持・発展の観点からの重要度が高い

- ① 原子力安全分野の中での適用範囲・貢献範囲が広い
- ② 実用化した場合に安全性向上・安全性検証への寄与が大きい
- ③ 事故の経験を踏まえた国際的貢献の寄与が大きい
- ④ 原子力安全課題解決のブレークスルーに繋がるか

中長期的な観点から安全基盤の維持や将来世代の
ニーズに資する課題に対する着手時期や優先度の評価